記者発表資料

平成２６年６月２６日
東北地方整備局
岩手県
陸前高田市

岩手県における復興祈念公園の基本構想を策定しました

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市高田松原地区では、岩手県による復興祈念公園の整備が計画されており、東北地方整備局は、岩手県及び陸前高田市と連携して、復興祈念公園の基本理念や基本方針、公園イメージ等を定める基本構想を検討してきました。

このたび、学識経験者等で構成した有識者委員会による検討ならびに市民シンポジウム及びパブリックコメントによる一般の方のご意見を反映し、「高田松原津波復興祈念公園基本構想」として策定しましたので、公表いたします。

１．基本構想の概要
　基本理念、基本方針、公園イメージ

２．検討経緯
- 平成25年9月26日　第１回有識者委員会（基本構想検討にあたっての論点整理）
- 平成25年12月2日　第２回有識者委員会（基本構想策定に向けた考え方について）
- 平成25年12月23日　市民シンポジウム開催
- 平成26年1月23日　第３回有識者委員会（基本構想（案）の検討）
- 平成26年3月10日　第４回有識者委員会（基本構想の作成方針について）
- 平成26年4月2日～4月17日　パブリックコメント実施
- 平成26年5月27日　第５回有識者委員会（パブリックコメント意見への対応検討）

※有識者委員会委員名簿は別紙のとおり。

３．今後の予定
今年度は、基本構想に基づき具体的な空間構成等を定める基本計画を検討します。

復興祈念公園に関する最新情報
東北地方整備局ホームページ(http://www.thr.mlit.go.jp/)　復興祈念公園　バナーをクリックして下さい。

（発表記者会：岩手県政記者クラブ、宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会）

〈 問い合わせ先 〉
国土交通省 東北地方整備局 建政部 都市・住宅整備課　電話：022-225-2171（代表）
課長　澤田　大介（内線6161）、課長補佐　石津　健二（内線6162）
岩手県 県土整備部 都市計画課 主査　今川　健太郎　電話：019-629-5890（直通）
陸前高田市 都市整備局 都市計画課 課長　阿部　勝　電話：0192-54-2111（代表）

（参考）

岩手県における復興祈念公園基本構想検討調査有識者委員会　委員名簿

	氏　名	役　職
委員長	中井　検裕	東京工業大学大学院社会理工学研究科教授
委　員	池邊　このみ	千葉大学大学院園芸学研究科教授
〃	牛山　素行	静岡大学防災総合センター副センター長・教授
〃	内藤　廣	建築家・東京大学名誉教授
〃	広田　純一	岩手大学農学部教授
〃	本多　文人	陸前高田市立博物館長
〃	涌井　史郎	東京都市大学環境学部教授
		（敬称略・五十音順）
行政委員	佐藤　悟	岩手県県土整備部長
〃	戸羽　太	陸前高田市長
〃	亀村　幸泰	復興庁岩手復興局復興推進官
〃	舟引　敏明	国土交通省都市局公園緑地・景観課長
〃	川﨑　茂信	国土交通省東北地方整備局道路部長
〃	岡本　裕豪	国土交通省東北地方整備局建政部長

高田松原津波復興祈念公園

基本構想

平成２６年６月

国土交通省東北地方整備局
岩　　手　　県
陸　前　高　田　市

はじめに

東日本大震災は広域にわたり甚大な被害が生じた未曾有の大災害です。このため、国が地方と連携して、犠牲者への追悼と鎮魂や、日本の再生に向けた復興への強い意志を国内外に向けて明確に示すこと等を目的とした、復興の象徴となる復興祈念公園を整備することが求められています。

岩手県は、東日本大震災により県内でも特に甚大な被害が生じた陸前高田市への復興祈念公園の設置を 2011 年（平成 23 年）12 月に表明し、2012 年（平成 24 年）7 月に「高田松原地区震災復興祈念公園構想会議」を設置し、2013 年（平成 25 年）3 月に「高田松原地区震災復興祈念公園のあり方に関する提言」を公表しました。また、2013 年（平成 25 年）2 月には「高田松原津波復興祈念公園」を都市計画決定しました。

本構想は、この提言の考え方を踏まえながら、国、岩手県及び陸前高田市の連携のもと、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市高田松原地区に設置される復興祈念公園について、基本理念をはじめ踏まえるべき基本的な事項をまとめたものであり、今後、具体的に進められる整備や管理運営において基本的な方針となるものです。

なお、本構想は、有識者及び関係行政機関の代表者からなる「岩手県における復興祈念公園基本構想検討調査有識者委員会」による審議を通じて策定しました。

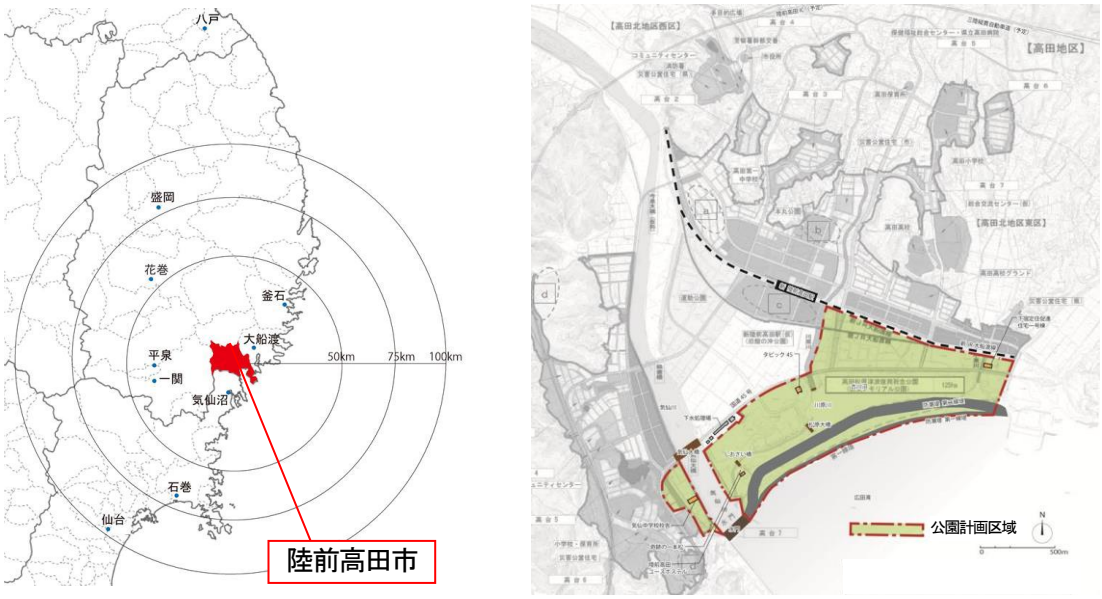


図１　高田松原津波復興祈念公園　位置図

岩手県における復興祈念公園基本構想検討調査有識者委員会

	氏　名	役　職
委員長	中井　検裕	東京工業大学大学院社会理工学研究科教授
委　員	池邊　このみ	千葉大学大学院園芸学研究科教授
〃	牛山　素行	静岡大学防災総合センター副センター長・教授
〃	内藤　廣	建築家・東京大学名誉教授
〃	広田　純一	岩手大学農学部教授
〃	本多　文人	陸前高田市立博物館長
〃	涌井　史郎	東京都市大学環境学部教授
		（敬称略・五十音順）
行政委員	佐藤　悟	岩手県県土整備部長
〃	戸羽　太	陸前高田市長
〃	亀村　幸泰	復興庁岩手復興局復興推進官
〃	舟引　敏明	国土交通省都市局公園緑地・景観課長
〃	川﨑　茂信	国土交通省東北地方整備局道路部長
〃	岡本　裕豪	国土交通省東北地方整備局建政部長

― 目 次 ―

はじめに

１．基本理念 …… １

２．基本方針 …… ２

３．公園イメージ …… ７

１．基本理念

三陸沿岸地域では、度重なる津波による被害を受けてきた経験から、先人達は被害を軽減する様々な努力を払い、津波の脅威を伝承しながら、自然と共生する防災文化を育んできました。また、国の名勝である高田松原は、幾度も津波被害を受けながらも、そのたびに再生され、三陸沿岸地域を代表する景勝地となってきました。

東日本大震災は、広域にわたり甚大な被害が生じた未曾有の大災害でした。岩手県では死者・行方不明者合わせて約 6 千人が犠牲となり、中でも陸前高田市では約 2 千人もの犠牲者が生じ、県内最大の被災地となりました。また、高田松原は、津波により砂州と松がほぼ全て消失したことで、風景は一変しました。このような中、一瞬にして失われた 7 万本の松から 1 本だけ生き残った松は「奇跡の一本松」として復興への希望の象徴となり、岩手県民だけでなく国内外の多くの人々を勇気づけてきました。

陸前高田市高田松原地区に整備する復興祈念公園は、岩手県、さらには被災地全体のかなめとなる祈念公園として、この地のみならず東日本大震災で犠牲になったすべての生命（いのち）に対する追悼と鎮魂の場となるものです。また、三陸沿岸地域で先人が培ってきた津波防災文化とともに今回の震災の実情と教訓を後世に伝承し、さらに高田松原の再生を通じて自然と人々との関わりの新たな姿をこの公園で具現化し、我が国の復興のありようを国内外に明確に示すものでもあります。

このような認識のもと、岩手県陸前高田市高田松原地区における復興祈念公園の基本理念を次のとおり定めます。

奇跡の一本松が残ったこの場所で
犠牲者への追悼と鎮魂の思いとともに
震災の教訓とそこからの復興の姿を
高田松原の再生と重ね合わせ未来に伝えていく

２．基本方針

基本理念を踏まえ、当公園の基本方針を次のとおり定めます。

（１）失われたすべての生命（いのち）の追悼・鎮魂

東日本各地に未曾有の被害をもたらした東日本大震災により、岩手県では、沿岸地域を中心に 4,672 人の方が亡くなられたほか、1,132 人の方がいまだ行方不明となっている[1]など、その人的被害は極めて甚大です。

中でも陸前高田市では、県内で最も多くの 1,556 人の方が亡くなられたほか、207 人の方がいまだに行方不明となっており[2]、生活の基盤となる市街地や地域産業が壊滅的な被害を受けています。また、高田松原や気仙町の天神大杉など、数百年にわたりこのまちを護り、また見守ってきた市民の心の拠りどころも数多く失われました。

失われたおびただしい生命（いのち）への追悼と鎮魂こそ、生き残った者にとって復興の起点であることから、当公園を、国内外の人々が東日本大震災で犠牲になったすべての生命（いのち）へ深い追悼と鎮魂の思いを寄せることができる場とします。

（２）東日本大震災の被災の実情と教訓の伝承

同じ悲しみを繰り返さないためには、東日本大震災の壊滅的な被害の状況や、市民の避難行動や様々な主体が行った救援・復旧などの発災後の活動状況を記録し、その記憶を後世に正しく伝承していくことが重要です。

当公園区域内には、今回の震災で被災した市街地や、約 7 万本の松と約 2km にわたる砂州の大半が消失した高田松原があるだけでなく、「タピック 45」「下宿定住促進住宅」「気仙中学校」等が残されています。これらをはじめとする地域の震災遺構を一体として活用することで、津波の被害の大きさばかりでなく、強さ、エネルギーなど津波の脅威を伝えていきます。

---

[1] 「東北地方太平洋沖地震に係る人的被害・建物被害状況一覧」（平成 26 年 5 月 31 日現在）（岩手県総務部総合防災室）より引用

[2] 同上

また、これらの震災遺構とともに、人々が語り部となって、記憶の風化を防ぎ、後世にこの教訓を伝承していきます。

加えて、今回の震災は大量の海水が気仙川を約 8km も遡り、海が見えない地域までも広範囲に被災するという想像を絶する大災害であったことから、地域の各所に残された津波到達の痕跡等との連携を図りながら、巨大災害の記憶を伝えていきます。

（３）復興への強い意志と力の発信

当公園には、約 7 万本の高田松原の中で、1 本だけ津波から耐え抜いた「奇跡の一本松」があり、被災直後から被災地に希望と勇気を与える復興のシンボルとしての役割を果たしてきました。陸前高田市では枯死した「奇跡の一本松」をモニュメントとして保存、整備した結果、発災から 3 年が経過した現在でも国内外から多くの人が訪れており、またその遺伝子を継承する松の苗を育てる取り組みも行われています。

現在、当公園及びその周辺では、防潮堤復旧や土地区画整理事業など様々な復旧・復興事業が進められていますが、これらの事業と連携してこの地に整備される当公園は、地域の人々が関わって再生される高田松原や奇跡の一本松とともに、東日本大震災からの復興全体のシンボルとなるものであり、被災地の再生に向けた復興への強い意志と力、また地域固有の自然や歴史に根ざした復興への力強いメッセージを国内外に発信していきます。

（４）三陸地域に育まれた津波防災文化の継承

岩手県の三陸沿岸地域は度重なる津波による被害を受けてきた地域であり、近世以後に限っても数十年から百数十年の間隔で津波被害を受けている津波常襲地帯です。

このような厳しい環境の中で、三陸沿岸地域の人々は、生命と生活を守るため、各集落の津波の到達点に記念碑を建立し、高台に集落移転したり、“津波てんでんこ”をはじめ避難のあり方を言い伝えるなど、幾世代にもわたる一貫した取り組みによって、被害を軽減する様々な努力を払い、津波の脅威を伝承しながら、幾多の津波被害を乗り越え、自然と共生する津

波防災文化を育んできました。

当公園は、三陸沿岸地域を代表する祈念公園として、津波防災に関する教育や研究の貴重なフィールドとなり、市が中心市街地に整備予定の震災復興施設（仮称）や他の被災地との連携を図りながら、津波防災文化を継承する場としての役割を果たしていきます。

（５）公園利用者や市街地の安全の確保

当公園は、国内外から多くの来園者を迎える場所となります。このため、公園利用者の安全を確保する避難路や築山等の避難施設にあわせ、避難誘導のための情報提供施設を整備するほか、利用者を対象とした避難訓練などを通じてこれらの施設の啓発に努めるなど、ハード、ソフト両面から利用者の安全性を確保します。さらには、新しく造られる嵩上げ市街地との有機的なつながりを持たせた機能的な施設配置を行うことで、利用者の安全性をより高めます。

また、当公園は、高田や今泉の市街地を津波から守るため、公園内に整備される防潮堤や海岸防災林とあわせ、多重防御のひとつとして築山等により津波エネルギー減衰等の機能を担う[3]とともに、防災機能も付加することで、市街地の安全性を確保すると同時に、公園自体の安全性を最大限に高めます。

（６）歴史的風土と自然環境の再生

当公園周辺は、背後にある懐の深い北上高地、山岳信仰のあった氷上山や雷神山、箱根山をはじめとする山々と森林、中世城郭が多く分布する丘陵、平地を流れ古くからサケ漁が活発に行われた気仙川、半島とそれに包み込まれた太平洋に開ける広田湾により、気仙地域固有の比較的温暖で穏やかな風土が形成されています。また、温暖な気候は北限のツバキやヒカミサンベニヤマボウシなどこの地域独特の植生を育み、地域の暮らしや農林漁業をはじめとする産業を支えてきました。さらにこの地域は、中世か

[3] 「東日本大震災からの復興に係る公園緑地整備に関する技術的指針」（平成 24 年 3 月）（国土交通省都市局公園緑地・景観課）を参照

ら三陸浜街道、今泉街道らが交わる交通の要衝であり、宿場町として発展した面影が今泉の町並みや吉田家住宅を中心に残っていました。このように、豊かな郷土芸能や食文化なども含めて、この地域は独自の文化を育んできました。

特に、今回の津波で甚大な被害を受けた高田松原は、後背地を塩害や飛砂等から守り、さらには高田や今泉のまちとくらし、人々の生命を守るべく約 350 年前に造林され、以来、津波のたびに工夫を重ねながら再造林、補植を繰り返し、世代を越えた地元住民の一貫した取り組みによって築き、育て、守られてきました。このような歴史を重ねた高田松原は、広田湾や氷上山をはじめとする背後の山々、また砂浜といった自然景観と、人々の手により創出された松林の文化的景観が一体となって形成された景勝地として 1940 年（昭和 15 年）に名勝に指定され、また、東北有数の海水浴場となるなど三陸沿岸地域に欠かせない資産であり、何よりこの地域に生まれ育った人々にとっては幼い頃から慣れ親しんだ原風景でした。

また、約 1,000 年前に形成された岩手県内最大の天然湖沼である古川沼は、多様な生物を育む貴重な汽水域であり、地域の人々が固有の自然にふれあうかけがえのない水辺空間でもありました。

今回の震災により、高田松原の砂州と松のほぼすべてが失われ、古川沼は海と一体化した状態となり、現在、防潮堤や河川の復旧工事が行われています。

当公園では、名勝高田松原を地域の人々とともに周辺の自然景観と松林の人工景観が織りなす景勝地として再び時間をかけて再生するとともに、古川沼を当公園における重要な自然空間として、また公園自体もこの地域の文化を継承する場として再生します。これにより、今回の震災で失われた自然環境や風土、そして地域に暮らす人々の原風景を取り戻し、郷土景観の再生を図ります。

（7）市街地の再生と連携したまちの賑わいの創出

東日本大震災により、沿岸部のほとんどの事業者が甚大な被害を受け、三陸沿岸地域の経済が大きな危機に直面した被災当初から 3 年が経過し、

仮設店舗等で事業者も活動を再開するなど、道半ばではあるものの沿岸地域の経済は立ち直りつつあります。一方、白砂青松の風光明媚な景勝地であった高田松原は、東北地方有数の来訪者数を誇る海水浴場でしたが、東日本大震災で多くの被害を受けました。

現在、「奇跡の一本松」には全国から多くの人が訪れており、当公園は、三陸沿岸道路の整備や道の駅の再整備と一体となり、三陸沿岸地域の観光や津波防災教育の拠点として交流人口の増加を促し、地域の活性化の原動力となる役割を担います。このため、三陸沿岸の市町村とも連携しながら地域一帯の歴史・文化的資源や被災地、また新しく形成される市街地への来訪者の周遊を促し、地域経済の活性化とまちの賑わいの創出に貢献します。

（８）多様な主体の参加・協働と交流

東日本大震災前から人口減少・高齢化が進行しているところに加え、震災により多くの住民が被災地を離れ、高台の仮設住宅や他の市町村に移転を余儀なくされたことから、地域コミュニティの衰退が懸念されていますが、地域コミュニティの回復、さらには活性化が真の復興につながっていくものであることは明らかです。

高田松原周辺では、東日本大震災以前から、高田松原の保全活動や自然観察、古川沼の水質改善など市民による活動が行われてきました。また、震災後には、新たに多様な主体がこの地域の復興に向けて様々な活動を進めています。

当公園は、このような取り組みを継承・発展させ、市民、NPO、企業など多様な主体が、植樹活動、伝承活動、防災学習活動、施設維持管理など、公園の計画・整備や管理運営において様々な形で参加・協働できる場とします。合わせて、早い段階から、将来にわたって持続可能な管理運営を行うことができる体制づくりを進めます。

３．公園イメージ

（１）公園イメージの考え方

基本方針に基づき、当公園における代表的な利活用イメージを想定し、その実現のために必要な空間イメージをあわせて想定することにより、具体的な公園のイメージを整理します。



2013年（平成25年）のけんか七夕の様子
（写真出典：陸前高田市観光物産協会）



震災以前のタピック45屋上からの眺望
（写真提供：渡辺雅史氏）



語り部ガイド講習会の様子
（写真出典：陸前高田市観光物産協会）

図２　基本方針に基づく利活用・空間イメージ

（２）利活用・空間イメージ

【震災への想いと追悼・鎮魂】

①被災地を代表して追悼式典を開催する

当公園は岩手県内最大の被災地に国や県が連携して設置する祈念公園であるため、東日本大震災で犠牲になった方々への追悼の意を込め、被災地を代表して追悼式典を開催することが想定されます。そのため、当公園の中心的な位置に、多くの参列者が一堂に会し、犠牲になった方々に想いを馳せ、心から追悼できる静謐な雰囲気を有する相当規模の広場空間を確保します。



写真１　タピック 45 前に設けられた東日本大震災の追悼施設・慰霊碑

②築山から再生された郷土の風景を展望する

当公園及びその周辺の風景は東日本大震災により一変し、様々な復興事業が行われています。来園者は背後にある懐の深い山々や丘陵、広田湾などの自然により育まれてきた穏やかな風土と地域独自の文化を感じ取るとともに、津波が来襲した海を望み、津波の高さを実感し、また被害を受けて復興がなされる市街地、再生されていく自然を展望することで、改めて今回の東日本大震災とその震災で失われた生命（いのち）への想いを寄せることができます。そのため、当公園では、周辺への展望が確保された開けた空間に、十分な高さのある築山を確保します。

③再生された郷土の風景の中を追悼の想いとともに逍遥する

かつて高田松原は名勝として、松林の中を逍遙するのに適した空間でした。当公園は広田湾や氷上山等の山々に包まれる中で、古川沼や高田松原といった郷土景観の再生を図り、来園者が東日本大震災の犠牲者に想いを寄せながら、震災前をしのばせる様々な風景の中に身を置き、また周囲の風景を眺めながら、落ち着いて穏やかに逍遥できる空間とします。



写真２　震災以前の高田松原内の逍遥空間
（出典：未来へ伝えたい陸前高田保存版写真集）

【未来への展望】

④復興への希望の象徴となっている「奇跡の一本松」に訪れる

陸前高田市が保存を行った「奇跡の一本松」には今も多くの来訪者があり、東日本大震災からの復興への希望の象徴となっています。そのため、当公園では、「奇跡の一本松」を様々な思いを受けとめる復興のシンボルとして、多くの人が訪れることができるよう、その象徴性を高め、復興への強い意志と力を国内外に発信していく空間を確保します。



写真３　多くの来訪者がある「奇跡の一本松」

⑤復興関連イベントを開催し復興のメッセージを発信する

当公園には東日本大震災からの復興への希望の象徴として国内外で知名度が高い「奇跡の一本松」があり、復興への想いやメッセージを国内外に発信するのに適しています。そのため、当公園では、多くの人が訪れる大小様々な復興関連イベントを開催できる広場空間を確保します。

⑥三陸地域の被災地等を訪れるために様々な情報を入手する

震災以前に設置されていた道の駅「高田松原」は、海水浴場と相まって多くの人が訪れ、市の観光拠点となっていました。当公園は、来訪者が様々な情報を入手できる地域のゲートウェイとして、市街地と連携してまちへの周遊を促すことにより交流人口を拡大することが期待できます。そのため、当公園では、再整備される道の駅とも連携し、国道 45 号など公園までの主要動線と公園内の動線が交わる場所で、津波防災教育や観光の拠点となる場を確保します。



写真 4　震災以前の道の駅「高田松原」
（写真提供：渡辺雅史氏）

⑦震災遺構や語り部・案内板等から震災の実情・教訓を学習する

当公園には、「タピック 45」「下宿定住促進住宅」「気仙中学校」「奇跡の一本松」などが残されており、これらをはじめとする震災遺構は、津波の高さや威力、そしてその被害の大きさを示す貴重な資料です。そのため、当公園では、震災遺構とその周辺で、語り部や案内板等により、その意味を伝え、今回の震災の実情や教訓を伝承していく場を確保します。



写真 5　下宿定住促進住宅

【かつての郷土の風景の継承】

⑧松苗の植樹や育成により地域の人々が育んできた高田松原を再生する

高田松原はこれまで幾度の津波の被害を受けつつも、地域の人々の手により松が育成され、350 年にわたって維持されてきました。景勝地であった高田松原の再生は、地域の人々の郷土の風景を取り戻すとともに、東日本大震災からの復興の象徴となり、その活動は地域コミュニティの回復にもつながります。そのため、当公園では、かつての高田松原を名勝として再生していくとともに、市民が松苗の植樹や継続的な育成が可能となる空間を確保します。



写真 6　震災以前の白砂青松の高田松原の風景
（写真提供：東海新報社）



写真 7　震災以前の高田松原内の清掃活動
（写真提供：高田松原を守る会）



写真 8　震災後の松苗の育成活動
（写真提供：高田松原を守る会）

⑨古川沼など郷土の自然や歴史とふれあう

当公園周辺は、氷上山や雷神山などの山々に囲まれ、気仙川が半島に囲まれた広田湾に注ぎ込み、水際に高田松原や古川沼からなる風景があり、園内には記念碑や、石川啄木や高浜虚子の歌碑も設置されていました。復旧・復興事業によりまちの形が変化する中で、当公園では、高田松原や古川沼周辺を中心に、かつての郷土の風景を再生し、来園者が地域の自然や歴史とふれあうことのできる空間を確保します。



写真 9　震災以前の古川沼の風景
（出典：未来へ伝えたい陸前高田保存版写真集）



写真 10　震災以前の氷上山からの眺望
（出典：未来へ伝えたい陸前高田保存版写真集）

⑩集落コミュニティの伝統行事の実施等により地域の歴史文化を継承する

この地域は虎舞や太鼓など多くの伝統芸能や行事が残り、集落のコミュニティごとに独自の文化を育んでいました。また震災前には、夏の風物詩であるうごく七夕の山車が道の駅「高田松原」前の広場で展示されていました。そのため、当公園では、コミュニティの再生を促し、地域のよりどころである独自の歴史文化を継承していくため、伝統芸能や行事を実施できる空間を確保します。



写真 11　震災以前の高田町で行われたうごく七夕
（出典：未来へ伝えたい陸前高田保存版写真集）

⑪かつての高田松原公園で行われてきた憩いやスポーツなど様々な活動を実施する

当公園は、かつて高田松原公園として多くの人が訪れ、散策等の憩い、ランニングや球技等のスポーツ、野外活動等が行われており、震災後も引き続きこのような活動の場が求められています。そのため、当公園では、憩いやスポーツなど様々な活動を行うことのできる空間を確保します。



写真 12　震災以前の海水浴の様子
（出典：未来へ伝えたい陸前高田保存版写真集）



写真 13　震災以前のスポーツ活動の様子
（出典：未来へ伝えたい陸前高田保存版写真集）

【人とまちの安全の確保】

⑫地震発生時に津波から安全に避難する

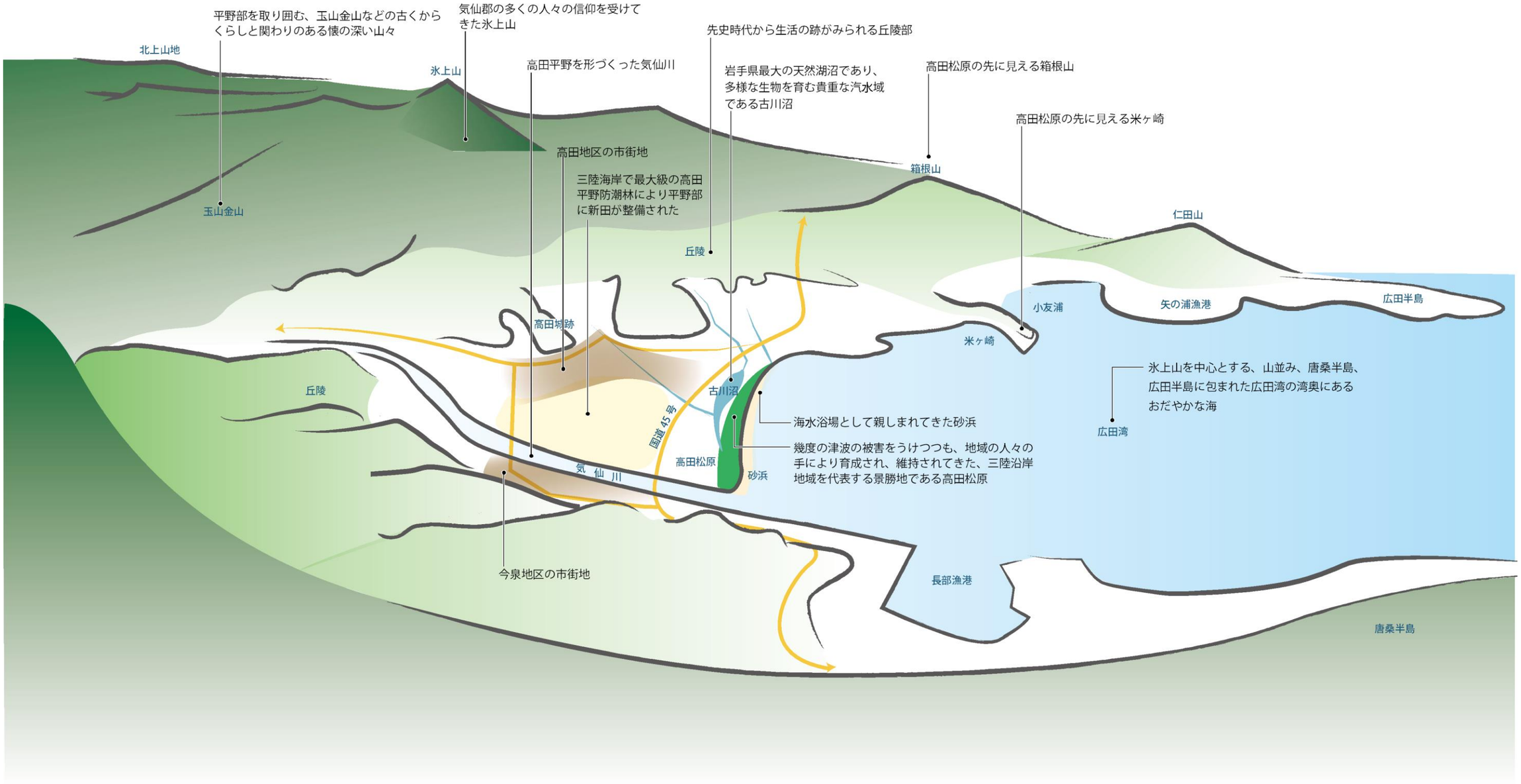
当公園は、最大クラスの津波が発生した場合は浸水する場所にあり、来園者の安全の確保が不可欠です。そのため、当公園では、園内の適切な位置に、安全な高さや面積を検証のうえ、避難が困難な来園者の一時避難場所となる築山を整備し、公園周辺の高台や嵩上げ市街地等の避難地へ円滑に避難できる避難路とともに避難誘導のための情報提供施設を設置します。

⑬地震発生時に津波から市街地を防御する

当公園には、高田及び今泉の市街地を津波から防御する役割が期待されています。そのため、当公園では、防潮堤とともに、津波エネルギーを減衰させる効果をもつ丘状の築山や樹林帯を確保します。また、津波時の漂流物は市街地の被害を増大させることから、これまでの防潮・防風林といった機能を確保しつつ、漂流物から市街地を守ることができるよう適切な幅・強度を持つ樹林帯を確保します。

なお、本構想については、今後の検討の進捗に合わせ、必要に応じて適宜見直しを行います。

○震災前の高田松原周辺の空間構造



〇震災後の空間構造と当公園の果たす役割のイメージ

